星屑

Feb. 1989 No168

特集 中小屋天文台訪問

※中小屋天文台の杉の板でできている絵葉書

去る、1月28、29日の両日、県民天文台の運営委員をしている4人が、宮崎県北郷村中小屋に昨年オープンした村営の「中小屋天文台」に見学にいきました。普通なら一人が代表して、星屑の記事を書くのですが、今回はいつもと趣向を変えて、4人それぞれの視点から思い思いに記事を書いていただく特集としました。

－編集部－

立川正之

宮崎県北郷村に昨年オープンした口径60cmリッチークレチアン式反射を備えた村営中小屋天文台へ先日1月28、29日、いってみゃーりました。

ことの発端は「この天文台で天体写真コンテストを開くのでKCAOのみなさんご参加下さい」と手紙が届き、他の星の同行会も詰めかけるということで交流のきっかけをつくるチャンス。そこでこの機会に行ってみようという同士を募り行動に移した訳であります。

参加メンバーは、今年大学を卒業し大都会へ一時お勉強にいかれる斉藤由貴の写真を枕元に置いておねんねされている高田さん。月刊天文のメシエ天体案内連載で有名なピーマンと納豆を崇拝されている新村さん、KCAOの花、名コック長で炭焼きコーヒーを好物とされている石原御令嬢と、私くし立川の計

４名。車一台に４人がぎっしり詰まり、一路北郷村へ。

弁当と夜食を買い込み、カーブの多い山道を走り、約３時間半で到着。天気は曇か雨かと一時心配していたのですが、車を降りると目の覚める様な晴天で雨男雨女はいないと確信したのであります。

さすがに九州一暗い所だけにプラネタリウムの星空のようと言うと変ですが、満天の星屑。建設の際ランドサット衛星から九州一暗い所を捜し出したとのことでした。

さて天文ドームとは別にユニークな建物があり、玄関からいるとすべて木造。ペンション、山小屋を思わせるムードのある施設はトイレ、台所、又研修室といわれる６角形の大広間が完備され不自由さのない造り。とくに研修室は径１５ｍほどの広々としたスペースで、多目的用途に対応できる部屋です。木の香りのするこの施設は外の森林とすごくマッチしています。研修室に私達４名がいった時は既に他の天文愛好家が数名みえられていました。

北郷村助役の挨拶があり、その後天体写真コンテストのルール説明会を合図に撮影会の幕開けです。

私達はさっそくドームを見学。といきたかったのですが、もはや４名の眼中には、弁当しかなく、車の中で星空をおかずにパクついた訳であります。もちろん例のごとく名コック石原さんの手作り（足ではつくれない）おにぎりと唐揚げが披露され、とくに唐揚げは３人の男の心を捕らえてしまったと言うことはいうまでもありません。

腹ごしらえの後、日本では初めてのリッチークレチアン式反射望遠鏡を拝見。ドームは６．５ｍと言う直径だけにかなり広く感じます。オート・ポジション・サーチ・システムの採用で、目的の天体を簡単に視野に入れることができます。まず、木星を。６０ｃｍだけに模様がよく見えスケッチするには大変だと新村さんの弁。光学系の見え味はこの後の新村さんと高田さんの記事にお願いすることにしましょう。

天体写真にとりかかりました。とは言っても、今日参加したわれわれは初心にかえり、固定撮影に徹するということでカメラと三脚というオーソドックスなスタイル。

撮影場所は、ドームの東側に広くコンクリートで整地されたところを主に利用しました。標高１０００ｍ３６０度開けたとてもよい観測地です。雲の全くない星空ですが、２３時３０分程に月が昇って来るので、ゆっくりしている暇はありません。

気温は既に氷点下の世界。腹部の皮下脂肪も役に立たず。

他の同行会のメンバーはガイド撮影で頑張っているようでした。東の空から月

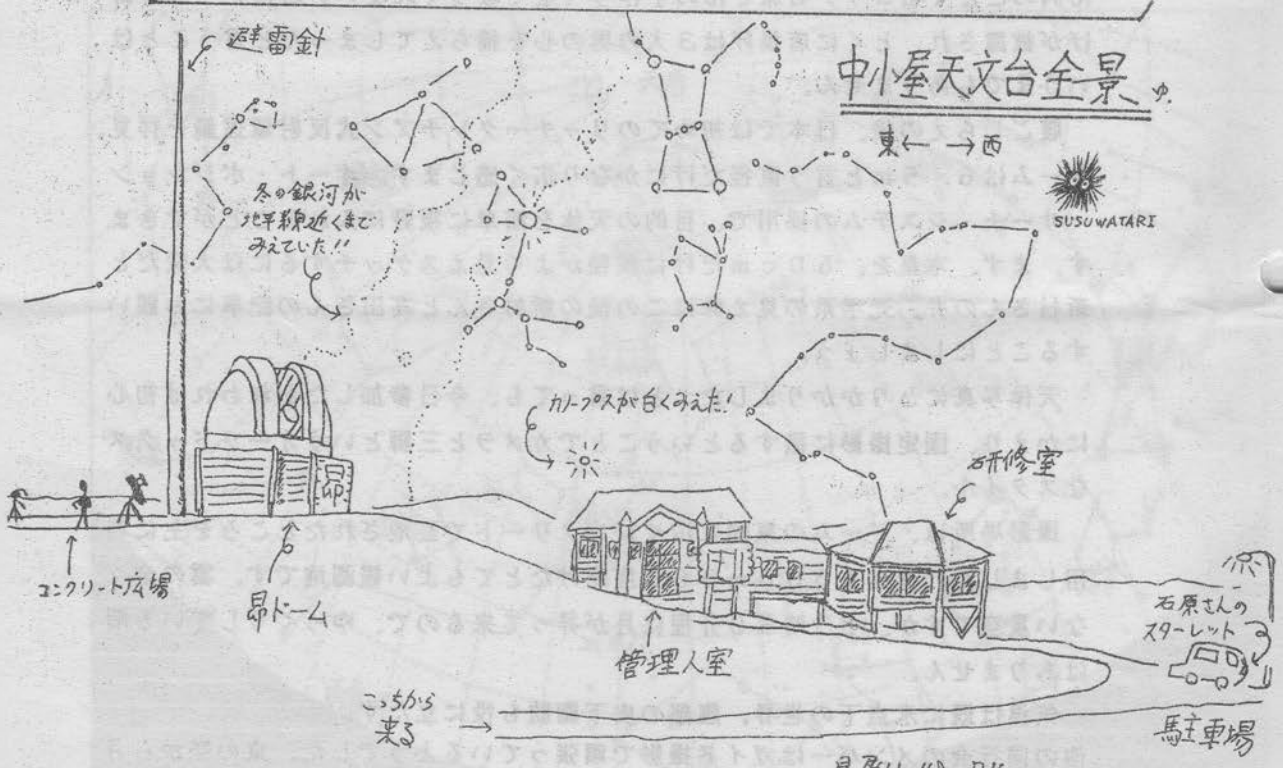
がのぼり始めると森林の木々が月にクロスされとても感動的でした。

撮影を終え建物のなかへ。建築関係の方々の宴会に混じり深夜に鍋と干しいも（星いもではない）という素朴なスナックを食べ就寝。今回の最大の喜びはこの星いもならぬ干しいもの発見でした。

朝４時、新村さんと高田さんは金星を撮影するために起床。私も日の出前の朝焼けを見ようと外へ。凍てつく様な寒さの中、東の星空と遠くの山々のシルエットが赤から青へと色づく幻想的な風景。何度見ても素晴らしいものです。

建物に戻ってストーブを囲みながら延岡ＳＯＳ天文同行会の会長をされている広永さんと天文台建設の話などをお聴きしながら、朝食のインスタントラーメンで体を温めた後、広永さんのご好意で天文ドームの内部を撮影させていただき、５人で記念写真。

荷造りを済ませコンテスト用のフイルムを整理し、出品（？）。今日の写真コンテストなんですが実は村から配られたフイルムで撮り、現像プリントはせずに、そのままデーターを添付して提出するという変わった指向になっています。ですから、私どもは自分の写真のできばえもみずにどんな写真なのかまったく見ずに恥をさらすことになります。ＫＣＡＯの名誉も何もあったものではありません。快晴の空の下、熊本へ帰ることにしました。途中、名コック石原さんと運転をバトンタッチ。そのすさまじいハンドルさばきに肝を冷やしたのは私だけだったのでしょうか。疲れてうなだれていた男３人は一瞬にして目が覚めてしまいました。



石原恵子

数日続いた雨の後だったので空模様を心配しながら出発しました。私は心の中で”私の「晴れ運」もそろそろ下降してきたかな？”と思い乍、まあ行くだけでも、せめて大きな望遠鏡がみられるだけでも良い！という気持ちでスターレット君に乗り込みました。仕事をいいかげんに済ませて急いで家を出たのは２時半を少し過ぎた頃でした。立川邸で猫と遊んだ後３時過ぎに出発しました。

高千穂より太平洋側にいったことのない私としては初体験ということでワクわくして「眠ってもいいよ。」という運転手のありがたいお言葉にもかかわらずあちこちの景色を楽しませていただきました。途中高千穂でお弁当も買ったし、すっかり心が豊かになった私達は天文台を目指して山の中へと行って行きました。　山のなかとは言え殆どが舗装された道で、快適なドライブを楽しんでいるうちにあたりが暗くなってきて木星がみえオリオンが判るようになり、ぽつんぽつんと星が増え始めました。車を降りて目が馴れると、冬の天の川が白くみえるし、日頃おめにかかれないよういな星まで見えるし日頃お目にかかれる星達も「ここにいる！」としっかり自己主張しています。

天文台に着いて、光る星図（なにやら石原２０００分点という名前もアルとか）を出して確認するくらいの沢山の星達をみていると清和村の空を思いだします。”こんなに綺麗な空をこんなに少ない人数で見るのは、もったいない。”とか”熊本でも毎日こんなに見えたらいいのに”等など思いながらボーットしているうちにあっという間に時間が過ぎてしまいました。

研修室でみんなで鍋をいただいていたとき、たまたま隣に座られた方は「全く星を見るのは初めて」で「会所記念に尺八の演奏をなさった方」でした。「太陽はどうして光るんですか？」「星は最後にどんなになる？」など尋ねられました。心の準備ができっていなかった私は、いつも子供たちに説明しているにもかかわらずあせってしどろもどろになりながら説明しました。かわりに尺八や横笛のことを教えていただいて”ほしいも”を食べたのでした。

この日は－５度以下で室内でコートをきて寝袋にはいっても寝られない私に布団を貸して下さったどなたかや（目の悪いわたしは暗闇で見えませんでした。ごめんなさい）皆のためにいろいろと食べ物や飲物を準備してくださったり後片付けをなさったかた、望遠鏡を一生懸命動かして下さった中川さん等々、沢山の方に出合えました。

こんなに楽しいところには、今度はぜひ皆で行きたいものですね。

６０ｃｍという大口径を実際に覗いたのは今回が初めてでありました。いつも、県民天文台の３１ｃｍで観望している私にとっても６０ｃｍという大口径を見た時はやはり感動しましたね。電動回転のドームはスライディングルーフを使っている自分としては、とてもあこがれてしまいました。（ドームの形は鉄人２８号の頭に似ていると申す者もおりました。）入口もすべて木製。なかに入ると、さむ風吹き抜ける外とは違い、風が全くなく、極楽といえる居心地でした。（スライディングルーフはとても寒いので。）そしてそこには、大砲のような６０ｃｍとマイコン制御によるコントローラーがありおもわず科学の進歩に圧倒されてしまいました。

＜Ｍ４２（オリオンの大星雲）＞

さすが６０ｃｍの大口径、縦横無人に入り乱れるガスの様子はすばらしいものでした。もっとも、星像は日ごろニュートン鏡をみなれている私にとってはあまりにも物足りないシャープさでした。

＜木星＞　６０ｃｍともなると、木星も輝いてまぶしくなるとは思いもしませんでした。予想よりも木星の模様がはっきりと見えたのには驚きました。

＜Ｍ３５＞　ふたご座の大きな散開星団ですが、最低倍率の９０倍でしたが、私はベストのピントを出すことができませんでした。

以上が６０ｃｍで見た３つの天体の見え方でした。

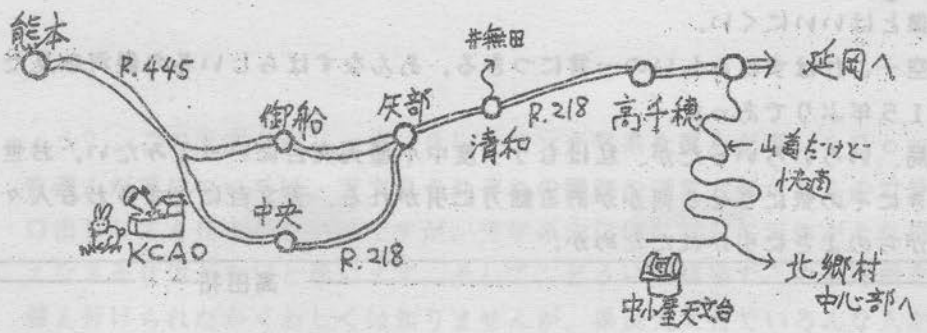
ドームのまわりとその東側にかけて、かなり広いスペースをコンクリートで固めてあり、大人数が一度に安全に星空をながめることができる。すぐ下に宿泊施設があり、２０人～３０人ぐらいまでならかるく大広間に収容できる。

中小屋天文台に行くまで、光学系について、いろいろ悪口を聞いていた。もっとも天文をやるものがまず気にするのは光学系であるからにはしかたがないと言える。

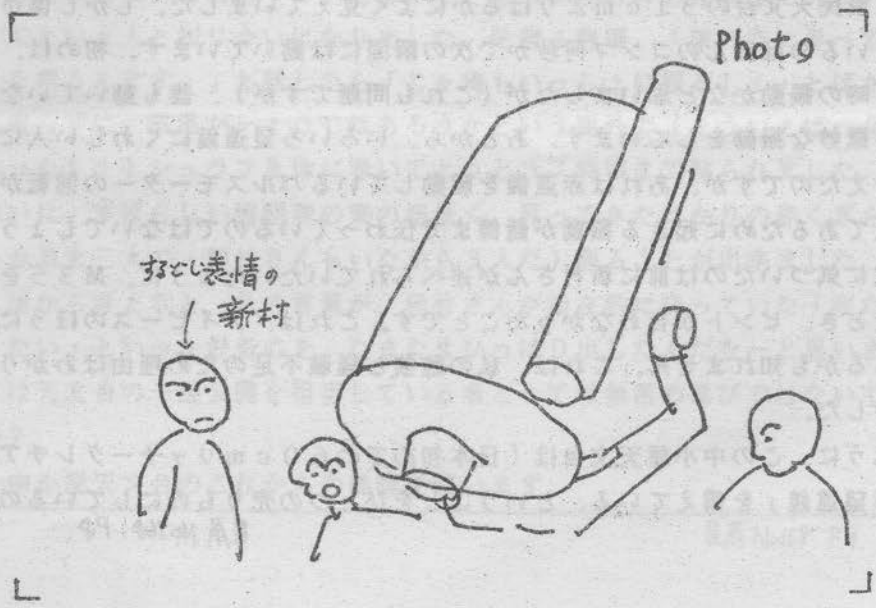
私、個人の印象では、確かに中小屋天文台の６０ｃｍは６０ｃｍの能力を十分に出しているとはいえないだろう。しかし、一般のひとが観望するのには十分な性能はだしていると言えると思う。

研修施設的なものをねらう限り、問題のないレベルの見え味である。もっとも「星の家」をねらっているのであれば、天文ファンを満足させることができ

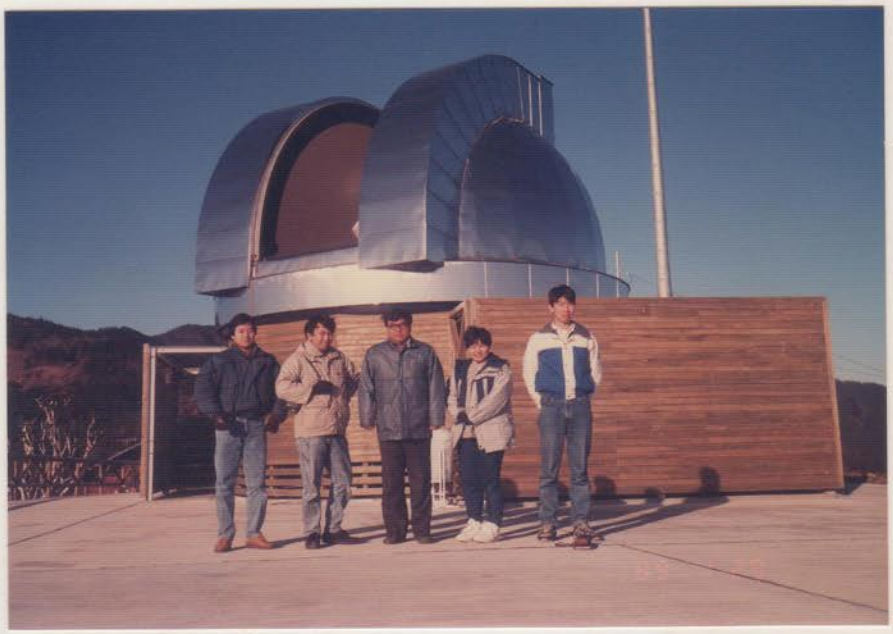
中小屋への道



ドームの前で



ドームの中で



89 1 29

る星像とはいいにくい。

夜空－これはすばらしいの一言につきる。あんなすばらしい冬の銀河を見たのは１５年ぶりであった。

結局、いろいろいったが、私はもう一度中小屋天文台にいってみたい。お世辞抜きにその気にさせる何かがある魅力に引かれる。天文台にたずさわる人々の人がらのよさに引かれたためか。

高田祐一

中小屋にみんなで訪問することを決めてから、北郷村役場、企画開発課の電話を掛けて、交通や宿泊などについて情報を集めました。担当の峰村さんからは非常に親切にいろいろ教えていただきました。

天文台についてからも、北郷村役場の方、また天文台に泊り込んで係をされている中川さん、延岡ＳＯＳ天文同行会の広永さんから、居心地が良すぎて困るくらい親切なもてなしを受けました。それとともに、関係者のこの中小屋天文台の運営を成功させようとする熱意がよく判りました。ただ、残念なことに広永さんをのぞいて天文や望遠鏡に詳しい人がいない様子でした。

この記事をなあなあですませる書き方は楽ですが、中小屋天文台に携わっている人があんなに頑張っているのをみると、かえって自分が感じ考えたことをちゃんと書かなければだめだと思いました。

考えたことはいろいろありますが、そのなかで、すばるドームの６０ｃｍリッチー・クレチアン望遠鏡についてここに書きます。望遠鏡の光学系や眼視観測に明るくない私でさえいろいろ欠点が目につきました。

特に気づいたのは、木星を観ていたときの鏡筒の振動です。木星の表面は確かに県民天文台の３１ｃｍよりはるかによく見えていました。しかし像が止まっているのはほんのコンマ何秒かで次の瞬間には動いています。初めは、人の歩く時の振動かなと思いましたが（これも問題ですが）、誰も動いていないときも微妙な振動をしています。あとから、いろいろ望遠鏡にくわしい人に尋ねて考えたのですが、あれは赤道儀を駆動しているパルスモーターの回転が低く抑えてあるために起きる振動が鏡筒まで伝わっているのではないでしょうか？

次に気づいたのは前に新村さんが述べられていたいたように、Ｍ３５を観ていたとき、ピントが合わなかったことです。これは、アイピースのほうに問題があるかも知れません。これは、私の勉強と経験不足のため理由はわかりませんでした。

思うに、この中小屋天文台は「日本初めての６０ｃｍリッチークレチアン式反射望遠鏡」を備えている、ということをひとつの売りものにしているのでし

ょう？。この天文台がリッチークレチアン光学系を選んだ事、６０ｃｍの口径を選んだ事については、天文台それぞれの観測や運営方針があるので外部者が口出ししても仕方がないのですが、光学系や口径に対して天体がそれ相当にみえなきゃ仕方がないと思います。そして、どういう経過でこの望遠鏡を選ばれ、備え付けられたかくわしくは知りませんが、県民天文台でいろんな人から聞く話から考えるに、現在望遠鏡に関しては、素人が望遠鏡メーカーや納入業者の言葉をそのまま鵜呑みにして安心して購入できる状態ではないと思います。

個人が、せいぜい何十万かのお金をはたいて変なものをつかまされても、「ああ、こりゃしもた、ろくでもないやつを買ってしもうたばい、いっちょ購入店に怒鳴り込んでやろうか・・・」ぐらいで笑うか怒るかするぐらいですみますけ。けれどもいち地方自治体が何千万、何億円か知りませんが住民の血税で購入した望遠鏡が悪いものであったら、まさしく泣くに泣けない状態になるに違いありません。

ここ何年か地方自治体が口径の大きさを売りものにした望遠鏡・天文台をつくることが、流行みたいになっています。県民天文台でも人がよるとたいていその話題がでてきます。「金なら、国や県の補助をとりつけてなんとかだせるから、施設は出来る。要は、それをどの様に運営していくか？、だ。これからは口径だけじゃ人を呼べなくなるかもしれん。」と話すのは、年間予算６０万ちょっとの貧乏天文台にいるもののひがみでしょうか？

これと直接関係ない話ですが、中小屋天文台でのエピソードを。
同じ日に天文台に泊まっていたなかで、宮崎で設計のお仕事をされている松竹さんという人と知り合いになりました。午前４時頃、「東の空に昇ってくる金星を観るんです。」と話したら「じゃ俺もいっしょに観る！！」とばかりに全然眠らずに、気温が－１０℃はあろうかという屋外で（そういえば、北風も強かった！！）シュラフを体に巻いてとうとう７時頃まで粘られました。そしてついに、すばらしい透明度の東の空低く、昇ってきたばかりの赤くぎらぎらした金星を二人で（新村さんもいたから３人だ）観ることが出来ました。

後から考えると、私の言葉が、松竹さんが潜在的に持っていた「観たい・知りたい」といった好奇心を、たまたまひっぱり出したんだなーと思います。これは天文台の一般公開を担当している者としては無常の喜びではないでしょうか？

中小屋天文台のこれからの健闘を願います。

やまびこ山村塾星見会

愛犬ブルはエルフレがお好き？　　たかたゆういち

山村塾の子供達

「高田君、うちの子供達にまた星ば教えにきてもらえんだろうか？」

中尾君が勤めるあのダイエーの産業道路をはさんで向い側にある、Ｏｕｔｄｏｏｒ専門店「山の店シェルパ」に入り込んで、またのうのうとマグカップでコーヒーをいただいていたわたしにお店の阿南さんが頼まれた。

阿南さんの言うところの「うちの子供達」というのは、つまり「やまびこ山村塾」であずかっている１５名の子供達のことである。

実は去年の同じころ、子供達と冬の星座でもみようかと、うちの天文台で毎週やっている一般公開の延長みたいな軽い気持ちで単身、山村塾にのりこんでいったのだが・・・子供達のパワーに圧倒されてビビッテしまった。俺のガキん頃はあんなに騒がしくなかったぞ！・・・まあ、考えてみればここでは毎日が修学旅行みたいなものだからな。

山村留学は１年間が基本で、また残っている子供はいるもののだいたい子供達はかわっているらしい。しかし、あいつらのことだから、去年よりさらにパワーアップしているかもしれない。こりゃ、へたをすると、又子供達に翻弄されて、手痛い目に遭うかも知れない。そこで、今回は強力な助っ人として、熊大天文研究会からＭＴ１３０を連れて行くことにした。

連休となった、１月１６日は昼間できれいに晴れていたが、山村塾に車で向かう頃になると雲が薄く広がり始めた。まあ、今夜望遠鏡で見せるのが、月と木星だから大丈夫だろうと思った。

山村塾に着いて、望遠鏡を組み立てているとさっそくめざとい子供達が集まってくる。「お兄ちゃんなんしょとね？わあーでっかい望遠鏡！！」「ぼくもうちにこんな長い望遠鏡持っている。このレンズをのぞくところにつけて見るんでしょう？」と言ってアイピースの入った箱をどこかに持って行こうとする。「コラ！それ持って行くといかん！」

なかには、「この、望遠鏡いくらぐらいするとね？」と値段を聞いてくるこもいる、

こんな時子供をあしらうすべを知らないから、正直に教えてやると「うわー」と驚く子や、「なんね、そのくらいね」と言う子もいる。

ちょっと、目を離しているとたちまち望遠鏡をいじくられてしまう。そうそう、それからここで飼っている、ブルという犬もまったく子供達に似て、ふざけ者で三脚の先をくんくんと嗅いでいたかとおもったら、おしっこをかけそうなそぶりをみせた。

望遠鏡のセッティングが終わったところで、建物の中にいって子ども達に、月と木星がどんなに見えるか黒板を使って説明する。子どもの中にはあっちこっちを向いたり、隣とおしゃべりしている子どもがいて、本当にこっちの話を聞いているのか不安になる。新任の小学校の先生はいつもこんな心境じゃないんだろうか？まあ、なかにはこっちの説明したことにいっちゃもんをつけてくる子もいたけど、文句をつけるほど聞いてくれているんだか怒る気にはなれない。

いよいよ、外へ出て月と木星の観望。最近の子どもは天文の耳知識はよくもっているが、実際観察したという子は少ないんじゃないかな。さっき「なーんね。そのくらいね」言った子もお月さんを望遠鏡で覗くと「うわーでこぼこがいーっぱい！」と感動している。こんなに感動されると望遠鏡をはるばるもってきた甲斐があるというものだ。次の木星もだいたいの子どもが、ちゃんと衛星の位置関係や、木星が円には見えないこと、縞模様などを観てくれる。

寒くなってきたから、ほどほどできりあげて建物の中で阿南さん夫婦と子供たちの世話をしている飯川さんと話をする。星に興味ある子供たちは就寝時間ぎりぎりまで、いろいろ尋ねてくるので、こちらは天文年鑑や写真を使って説明してあげる。

しかし、何事もなく無事終わったかの様にみえた今回の星見会はいよいよここから佳境にはいるのである。

さあ、帰るだんになって、望遠鏡を片付けてるとなにかが足りない！ ※「にゃー」「ない」という意味

エルフレ４０ｍのアイピースがにゃー！！どこかにいっている。下は芝生だし・・・落ちていればすぐみつかるんだがなー？ポケットに入れたか？車の中は？まさか子供達がいたずらしてもっていくことはないだろうし。

飯川さんと、懐中電灯で辺りをさんざん探しまわったが見つからない。よわつたなー。よりによって値段の高い方のアイピースがなくなるなんて。

結局、その日はそのまま見つからずに帰る。

そしてその翌日朝早く「ありましたよー！犬のブルがくわえてもっていっとった。今朝、起きて探してみたら、箱ごと、ブルが持っていっとったのがみつかったヨー」と電話あり。アイピースの紙のケースは一部壊れていたが、エルフレのアイピースは無事、手元に戻ってきましたトサ。　おわり

※「やまびこ山村塾」

阿南さん夫婦は、最近の子供達から失われがちな生活体験を、菊鹿町の豊かな自然環境の中で呼び戻してあげようと、３年前「やまびこ山村塾」を開かれました。ここで、子供達は１年間親元から離れ、ちかくの内田小に通学しています。今年度は男子１０名、女子５名の計１５名が入塾して元気に毎日の生活を送っています。

個人輸入のススメ初級編

～スカテレを購入しよう～　　三上　真人

最近の天文雑誌がどうもおもしろくなく、内容の割に値段もけっこう高いので、円高でもあることから、「スカイアンドテレスコープでも読んでみるか！」と思い立ちました。ちなみに1冊あたり＄２．５０ですので、日本円にすると約３２０円という価格になります。これだけでも安いのに、年間購読をすると＄２５．４５で約３３００円となります。ただし船便ですので月遅れになりますが・・・・・

（１）まずはカタログを取り寄せる

まず最初にカタログを請求します。カタログといっても本の案内書のようなもので、英語では”Ｓｋｙ　Ｐｕｂｌｉｃａｔｉｏｎ　Ｃａｔａｒｏｇｕｅ”と言います。このカタログは無料（ｆｒｅｅ）でしたが、一応礼儀として、国際返信用切手（郵便局の本局などであつかっている。１枚１５０円）を２枚ほど同封したらよいでしょう。自分の住所などもはっきりとわかるように書きます。（できればタイプするのがよいですが）　約２週間ぐらいでカタログが届くでしょう。

（２）カタログを眺めて注文する

カタログが届いたら、注文書などを確認します。スカテレの購読は注文書の郵送方法とか購読年数、名前と住所などで十分ですが、スカテレと一緒に星図なども買おうというときはカタログからコード番号を探し、それと数量、金額なども記入しなければなりません。私の場合、ついでにスカイアトラス２０００．０などの本も一緒に注文しました。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、この星図は２０００年分点で８等級まで載っています。しかもカラー版でたいへんきれいで、なかなかのものです。このカラー版の場合＄３９．９５で郵送料１５％を加算しても約￥６０００円となります。某望遠鏡販売店ではなんと１２０００円で売られています。個人輸入すればいかに安く済むかおわかり頂けたと思います。

注文書に必要事項を書き込むかタイプすれば十分です。これをエアメールで送ります。

（３）送金の方法

注文書と同時に代金を払わなければなりませんが、送金方法はクレジットカード（ＶＩＳＡまたはＭＡＳＴＥＲ　ＣＡＲＤのみ）と国際郵便為替の２通りがありますが、ここでは後者の方法を説明します。まず郵便局（本局）の為替の窓口に申し出ます。すると、国際郵便為替の送金票などが渡されますから、これに送り先の氏名、住所、送り手の氏名、住所をローマ字で記入し、送金金額を記入して、後は窓口でやってもらいます。手数料は金額にもよりますが、１０００円前後で済むと思います。送金は３週間程度で届くようです。クレジットカードなら、もっと早く届くかもしれません。

（４）その他

こういったやり取りで難しいのが、英語です。日本語が通じれば誰も苦労なんかしませんが、そこが ”輸入”のおもしろいところです。持っている知識をフルに活用して、あるいは遠い昔の過去に先生から習った英語を思い起こしながら、挑戦してみ

たらどうでしょう。例えば、「カタログを送ってください。」という文章は、
" Please send me your publication catarogue ."
などと作ってみてはどうでしょう。あとは皆さんで辞書を片手に工夫してみてください。

それから、僅かでもお金を扱うので、トラブルを避けるためにも、注文書や送金票、手紙などもコピーをとっておきましょう。証拠をとっておけばだいじょうぶだと思います。

私の場合、雑誌と星図は約２カ月程でほぼ同じごろに届きました。船便とはいえ、長くかかるようにも思えますが、しかたないでしょう。

今流行の個人輸入について書いてみましたが、円高でもあることだし、一度皆さんも試したらどうでしょう。株なんかに手を出すよりももっとおもしろいに違いありません。

尚、何かわからないことなどありましたら、編集部まで連絡を下さい。出来る限りご相談に応じます。 もっとも、お金の方の相談には応じられませんが・・・・・・・・・・

Koopo Ogata 203
Kurokami 2-38-20
Kumamoto-shi, KUMAMOTO
860 JAPAN

May 21, 1988

Dear Sir,
I want to subscribe SKY & TELESCOPE, and to buy some your publications. I write them in your coupons. I paid $197.25 to you for the price of subscription and publications , I will buy, by International Money Oder on May 19.
I added 15% for postage to each price of publications, but I did not add sales tax or postage charges to subscription.
If my payment will be short, please charge me. So I will pay you right away.

Sincerely yours,

Masato Mikami

外國郵便為替金受領証書 (きゅうて国 アメリカ)

受取人 氏名	SKY PUBLISHING CORPORATION
住所	P.O. Box 9111
	Belmont, Ma. 02178-9111
	U.S.A
差出人 氏名	Masato Mikami
住所	Koopo Ogata 203 Kurokami 2-38-20
	Kumamoto-shi 860 JAPAN TEL 096-345-7825 (203)
取扱指定	為替金額(外貨額)
払込 電信(書留 普通)	$197.25
送金 払渡通知 受取証通知	
送金目的(他人には通知されません)	
雑誌の購入	
記事	

(例文) 注文時にこのような英文の手紙をつけました。
あくまでも参考ですので ....

受取証 No. 077457

郵便 年月日	63-05-19	為替 金額	US$197.25
郵便 郵便局	71001	国名	アメリカ
	5 20	為替 レート	US$1/¥126.55
	2	郵送 料	
	N087	郵送 数量	24,761

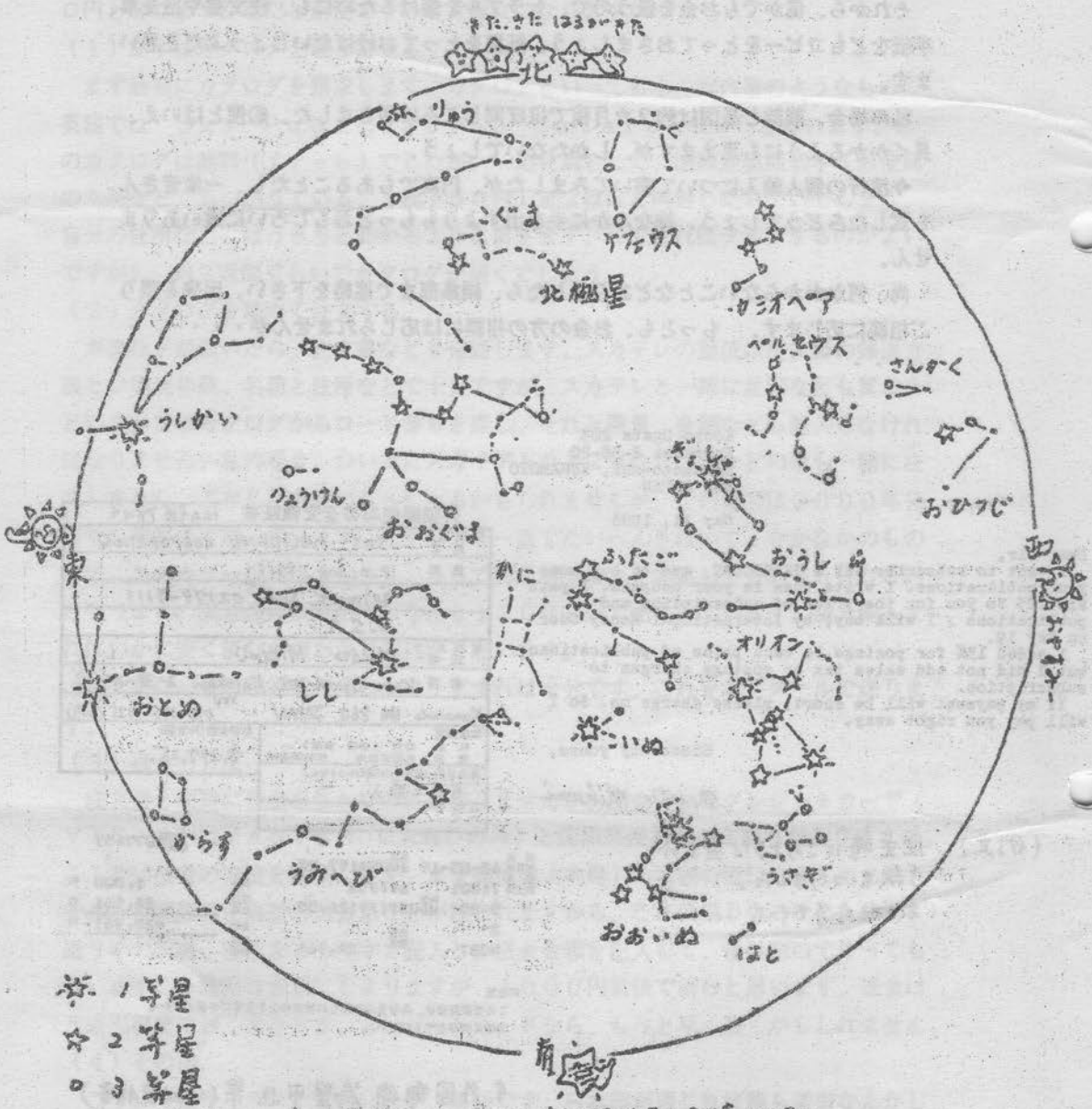
料金	1,000 円
為替 金額	24,761 円
合計	¥25,761+ 円
電報 字数	

注意
この受領証書は、為替金の払戻しの請求のときなどに必要ですから大切に保存してください。

↑外国郵便為替申込票(これは受領書)
このようにローマ字で書きます。

星屑 No.168. P13

Keikoの星空さんぽ

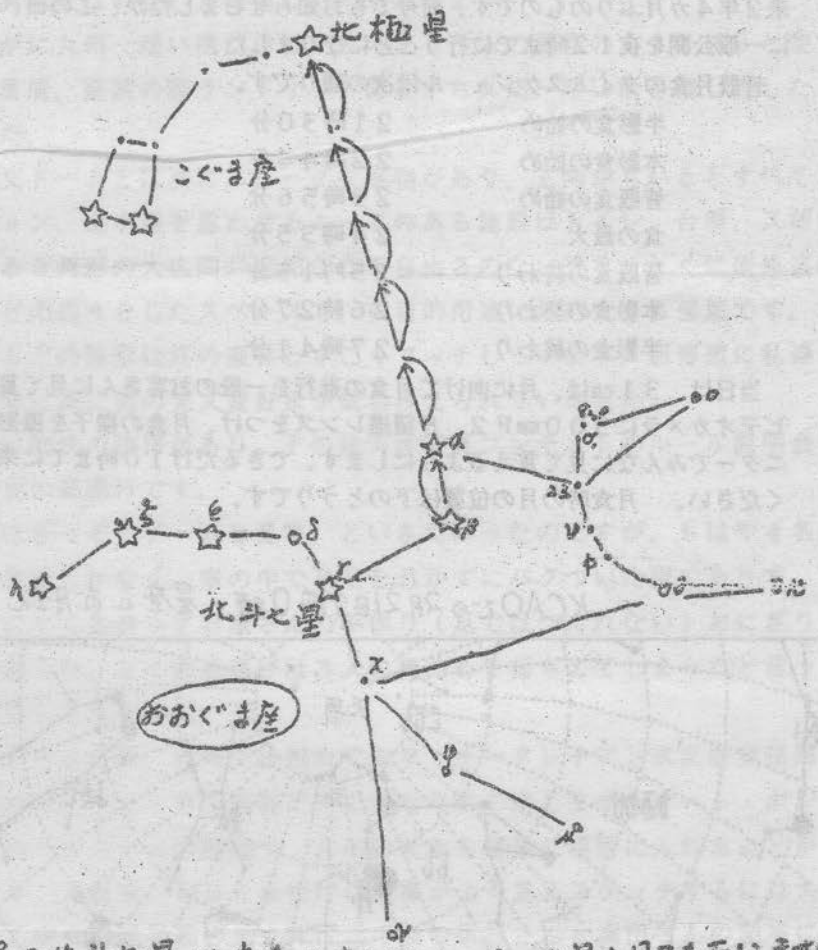


☆ 1等星
☆ 2等星
○ 3等星
・ 4等星

カノープスはあんまり高いので
「酒よい星」と呼ばれてるんだって.

3月の天体

おおぐま座



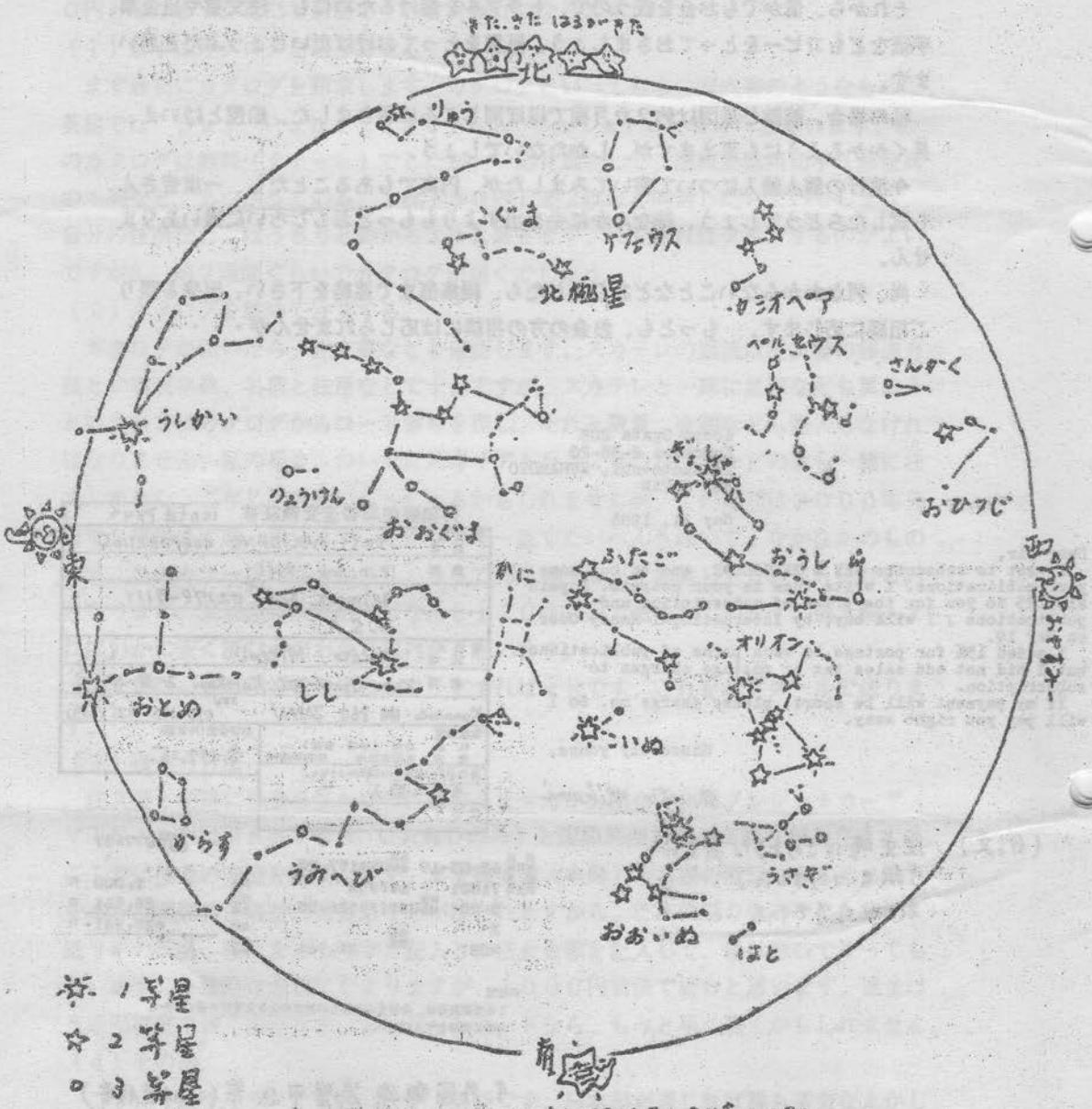
おおぐま座の北斗七星は有名ですく別に5星の伴星を見ても死にませんっが、この大きなひしゃくが見えたらもう少し星をかえて大きな熊の形を想像できますか？

☆おおぐま座 β → おおぐま座 α → ×5 北極星

はよく聞きますが、初めての方は一度実際の空でお試し下さい。

星暦 No.118. P15

Keikoの星空さんぽ



☆ 1等星
☆ 2等星
○ 3等星
・ 4等星

カノープスはあんまり高いので
「酒よい星」と呼ばれてるんだって。

星屑No.168. P14.

月食とその日の一般公開のお知らせ

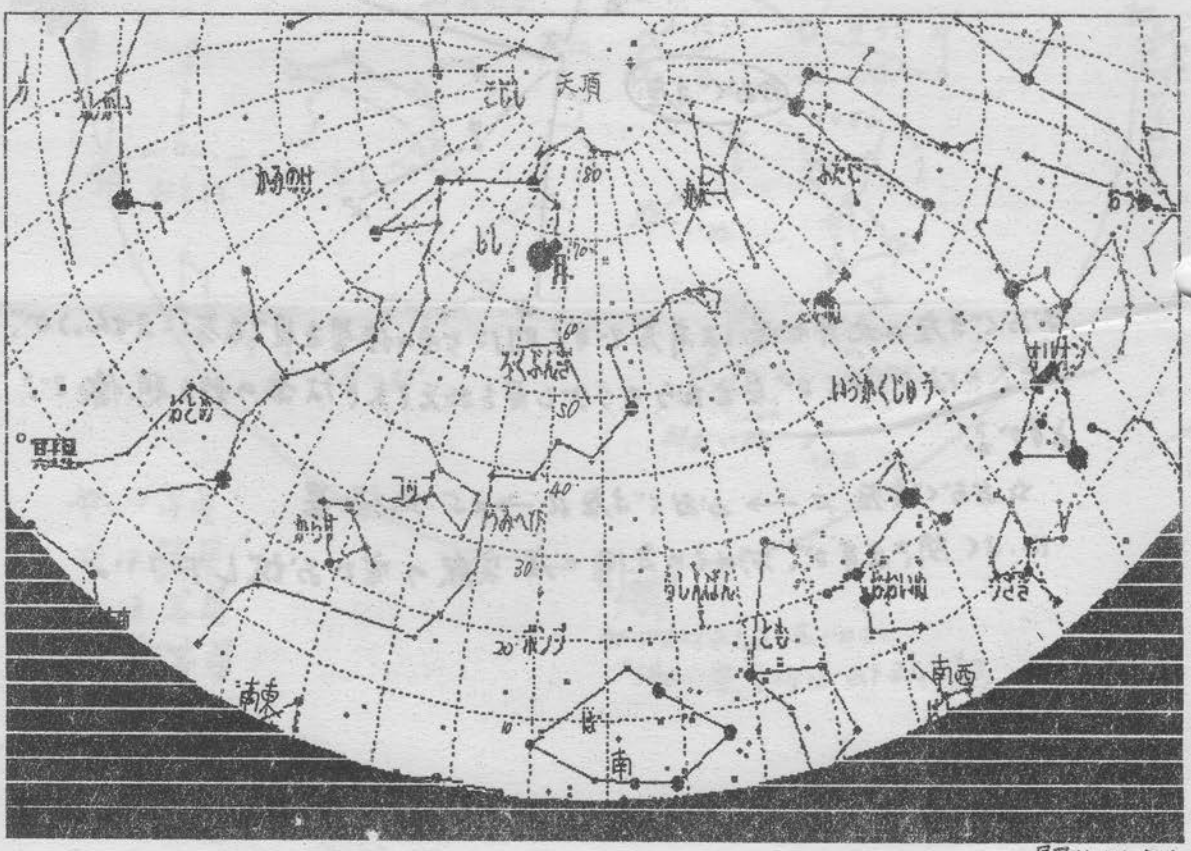
みなさんもすでにご承知のこととは思いますが、 来る２月２０日（月）の夜中に皆既月食が見られます。日本で見られる皆既月食としては１９８６年１０月１８日以来２年４カ月ぶりのものです。前号でもお知らせしましたが、この日、天文台は特別に一般公開を夜１２時までに行うことになりました。

皆既月食のタイムスケジュールは次の通りです。

半影食の始め	２１時３０分
本影食の始め	２２時４４分
皆既食の始め	２３時５６分
食の最大	２４時３５分
皆既食の終わり	２５時１５分
本影食の終わり	２６時２７分
半影食の終わり	２７時４１分

当日は、３１cmは、月に向けて月食の進行を一般のお客さんに見て貰います。また、ビデオカメラに３００mmＦ２．８望遠レンズをつけ、月食の様子を撮影し、同時にモニターでみんなに見て貰えるようにします。できるだけ１０時までに来るようにしてください。 月食時の月の位置は下のとうりです。

KCAOでの2月21日午前0時の星座とお月さん。



３月の天文現象＆行事

１日　０５ｈ０８ｍ　下弦の月
４日　第３回メシエマラソン
８日　０３ｈ１９ｍ　新月
１３日　０７ｈ３０ｍ　天文台運営委員会
１４日　１９ｈ１１ｍ　上弦の月
２１日　００ｈ２８ｍ　春分
２２日　１８ｈ５８ｍ　満月
３０日　１９ｈ２１ｍ　下弦の月

第３回メシエマラソン参加者募集！！

時：３月４日（土）午後７時～５日（日）日の出まで
ところ：熊本県民天文台

ひと晩でメシエ天体１１０個すべてを見てしまおうという天文界のトライアスロン、あのメシエマラソンの季節到来です。３１ｃｍで、または自分の望遠鏡でチャレンジしてみませんか？
なお、雨天、曇天の場合は「雨のバカヤロー、雲のバカヤローパーティ」（仮称）などいろいろな催しを予定しています。皆様の参加をお待しています。

詳細、申し込みは

熊本県民天文台　Ｔｅｌ　０９６４－２８－６０６０
ＰＭ７：００～ＰＭ９：００まで（月曜、曇天は不可）
天文台事務局　Ｔｅｌ　０９６－３２４－３５００　まで
担当は火曜日の運営委員　Ｆ．新村

表紙の説明　　池永　久美子

中央の女性は月の女神アルテミスです。
月食のまえに、レグレスの食があるので、
しし座とアルテミスをからませて描きました。

～新運営委員紹介～

既に先月から、我らが熊大天文研究会の副部長兼渉外である江藤直（えとう すなお）君（工学部電気情報工学科２年在学中）が新しく運営委員となりました。彼は某天文台で”インスタント式レギュラーコーヒーのいれかた”を発見した有名な人物です。担当は金曜日です。ちなみに、彼は同じ曜日の三上君とともに４月号から星屑編集を担当する予定になっています。（江藤君いはく「浅地さん、やめてくださいよ～」）　どうぞ宜しく。

編集後記

ここに星屑１６８号をお届けします。突然ですが、今号を最後に星屑編集をおりることになりました。これからは、自分にかわって、後輩が編集することになりました。一昨年11月から１年程の短い間でありましたが、いままでなんとかやってこれたのも、みなさんのおかげと感謝しております。これからも星屑をよろしくお願いします。

熊本県民天文台機関誌「星屑」　１９８９年２月号　通巻１６８号

発行所　熊本県民天文台　　〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号熊本市博物館内

TEL096-324-3500

振替口座　熊本8-24463

熊本県民天文台事務局

編集担当　　浅池　伸威